

## コンクリート充填判定装置

# シナガワ、レンタル開始

【東大阪】シナガワ（大阪府東大阪市、品川敏幸社長）は、コンクリートの打設工事の際、目視しにくい場所でのコンクリートの充填を判定できる装置「スカセンサー」のレンタルを開始した。打設場所に設置した光ファイバーセンサーがコンクリートの充填を検知し判定器のランプが点灯することで充填完了を知らせる。橋や高速道路のジャンクションなどの工事現場での利用を想定する。2025年にレンタル事業で売上高1億円を目指す。



コンクリートの充填を判定できる装置「スカセンサー」（シナガワ提供）

判定器のレンタル価格は1日当たり2万5000円（消費税抜き）。センサーや返却後の補修、技術者の派遣などは別途料金が必要。IHエ子会社のIHインフラシステム（堺市堺区）が開発した技術を活用。シナガワはIHインフラシステムとライセンス契約を実施する。

判定器と光ファイバーセンサーをケーブルでつなぐことで、8カ所同時にコンクリートの充填状況を検知できる。センサーの先端部は直径6ミリ。コンクリート充填後にコードを引き抜くことでセンサーを回収できる。施工したコンクリート内に異物を残さないためコンクリートの品質向上につながる。

従来は熱電対のセンサーで温度変化を測ることでコンクリートの充填を判定していた。だがセンサー表面に凹凸があり引っ張ると切れるため、コンクリート内部にセンサーを残したままにしていた。

スカセンサーは3月、国土交通省の最新技術情報提供システム（NETIS）に登録された。